

## 「エネルギー基本計画」

2021年10月に第6次エネルギー基本計画（以下、第6次計画）が閣議決定され、本誌2021年10月号で紹介した「カーボンニュートラル」の実現に向け、2030年度のエネルギーミックス（電源構成）が示されました。今回は、この「エネルギー基本計画」について説明します。

### 1. エネルギー基本計画とは

エネルギー基本計画とは、2002年6月に「エネルギー政策基本法」が制定された際、エネルギー需給に関する施策の長期的、総合的かつ計画的な推進を図る目的で策定・公表されたもので、直近の第6次計画においてはカーボンニュートラルの実現に向けたエネルギー政策の道筋を示すことが重要なテーマとされています。

### 2. 「S+3E」の基本方針

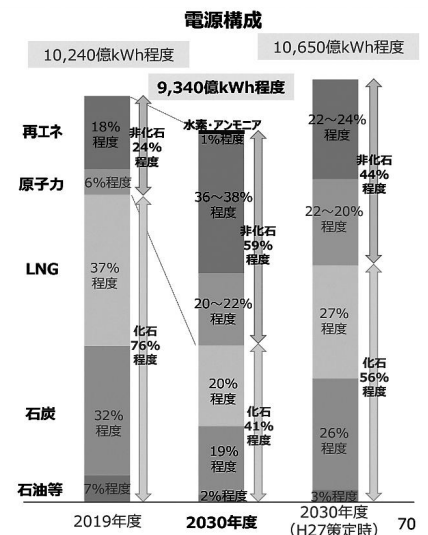
エネルギー計画は「S+3E」と呼ばれる基本方針に沿って策定されます。Sは「Safety（安全）」、3Eは「Energy Security（安定供給）」「Economic Efficiency（経済性）」「Environment（環境）」の頭文字です。

2011年の福島第一原発事故を経験した日本においては、まず安全性の確保をエネルギー政策の大前提として掲げています。また、資源に乏しくエネルギー自給率が低い日本においては、エネルギー自給率の向上と輸入先の分散により国際情勢の変化に左右されるリスクを軽減し、価格が高騰しないよう経済効率性のある発電に取り組むことが重要となります。さらに、温室効果ガスなど地球規模の環境問題解決に向け、再生可能エネルギー（以下、再エネ）の普及などによるカーボンニュートラルの実現が世界共通の目標となっています。

### 3. エネルギーミックス（電源構成）

エネルギー基本計画においては、発電方法毎の電源構成の割合についての目標値が定められており、この電源構成を指してエネルギーミックスと呼んでいます。第6次計画における2030年度のエネルギーミックスは再エネが36～38%（2019年比+18～20%）、水素・アンモニアが1%（同+1%）、原子力が20～22%（同+14～16%）、液化天然ガス（LNG）が20%（同▲17%）、石炭が19%（同▲13%）、石油等が2%（同▲5%）となっており、再エネの主力電源化による自給率の向上、エネルギー起源CO<sub>2</sub>の45%削減を目標としています。

発電方法にはそれぞれ一長一短があり、CO<sub>2</sub>削減などの環境面や安全性に配慮しながら、一方では安定供給を維持できるようなバランスを取ることが重要となります。



資料：資源エネルギー庁 HP

#### 【主な発電方法の長所・短所】

発電方法	長 所	短 所
火 力	燃料資源の運搬・保管が比較的容易	CO <sub>2</sub> 排出量大、価格・調達が不安定
原子力	発電量大、CO <sub>2</sub> 排出量が非常に少ない	事故発生時のリスクが甚大
太陽光	CO <sub>2</sub> 排出量が非常に少ない	コストは改善傾向にあるが依然割高

## 閑話ひとつ

最近ある自治体の産業人材育成塾に塾長として関わらせて頂き、先日卒業式を迎えた。その事業構想発表の中で、塾生一人ひとりの言の葉が、心に刺さり、響いた。共通していたのは、「地域愛、地元愛、そして人間愛」だった。地域には、素晴らしい場所があり、地元産品があり、そして何より情に厚い人がいると熱く語ってくれた。彼ら、彼女らは地域の宝であり、これから地域を発展させる種として、慈しみ育てていきたいと願う。春は、入学、入社、の季節。「Where there is a will, there is a way」「意志あるところに道は拓ける。」どんな困難な道でもそれをやり遂げる意志さえあれば、必ず道は開けるといふ、希望と勇気の湧く言葉。自分はこの世でたった1人しかいない存在で、人生はたった1度しかない。意志を貫くのは容易ではないが、誰のものでもない自分の人生を歩みたい、生きたいと思ったらもう道は拓いている。たった一人の熱狂、情熱が必ず世界を変える。コロナ禍の中ではあるが、新入生、新入社員皆さんの想い、願いが叶いますように。私自身も矜持と覚悟を持って、地方創生をしっかりとやり切ろうと決心した次第である。 (KY)